

緊急地震速報評価・改善検討会(第8回)における 予測情報の検討状況について

緊急地震速報評価・改善検討会(第8回)における予測情報の検討状況について

平成28年11月14日に開催した第8回緊急地震速報評価・改善検討会(座長:田中淳 東京大学大学院総合防災情報研究センター長)における長周期地震動の予測情報に関する主なコメントは以下のとおり。

揺れに対する警戒を伝えるために、**今考え得る方法として最も良いのは、**現在検討が進んでいる、**緊急地震速報(警報)に長周期地震動の基準を組み込む方法**である。これに加えて、**様々な被害を防ぐためには予報を活用していくことも強調すべき点**である。

長周期地震動であっても猶予時間を長く取れない場合もあるので、揺れから身を守るためには、**初動のための情報はシンプルの方が良い。**

テーブルや机が安全とは限らない。長周期地震動に対する対応行動を考えた場合、あまりテーブルや机が安全だと思わせるような表現は用いない方が良い。

緊急地震速報の導入当初、様々な場面を想定した周知広報に取り組んだ。長周期地震動の基準を組み込む際も、**利用者の視点で分かりやすい周知に心がけなければならない。**